

# ヨット初心者の技術習得度に関する研究 ～小学生と大学生を比較して～

瀬崎 圭 (生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)  
指導教員 林 綾子

キーワード：ヨット初心者、技術習得度、ゴールデンエイジ

## 1. 序論

筆者が訪れたインターンシップ実習先で行われていたヨットプログラムに参加した時、大学生より小学生のほうがヨットにうまく乗っていたことに疑問を感じた。そこで筆者はヨットにおける小学生と大学生の技術習得度の違いに着目した。

スキヤモンの発育発達定義によれば、小学生高学年の時期にゴールデンエイジと呼ばれる時期を迎える。この時期は「即座の習得の時期」と呼ばれている(藤井, 2013)。このことが大学生と小学生のヨットの技術習得の違いに関係があるのではないかと考えた。

本研究の目的は大学生と小学生の技術習得の違いを明らかにすることである。この研究課題は年齢に応じたヨット指導の確立に役立つ基礎資料になるのではないかと期待される。

## 2. 研究方法

A 海洋センターにて8月17日～27日の10日間、ヨットについての調査を行った。ヨットの経験回数が3回以上の人を対象外とし、大学生54人小学生36人を分析対象とした。アンケートは筆者が独自に作成したヨットの技術習得度3因子15項目(技術得点7項目、理解得点6項目、心理得点2項目)を用いてアンケート調査した。

## 3. 結果と考察

大学生と小学生の技術を比較するために、技術習得度合計点の平均と標準偏差を算出し、その差を見るために対応のないt検定を行った(表1)。

表1. 大学生と小学生の技術習得度合計点、因子得点の平均点および標準偏差とt検定結果

	M (SD)		t値
	大学生(54)	小学生(36)	
技術習得度合計点	39.54 (8.01)	44.39 (6.39)	-2.71*
技術得点	20.52 (5.09)	24.78 (4.08)	-4.19*
理解得点	19.02 (3.55)	19.61 (3.75)	-0.75n.s
不安得点	2.63 (1.49)	2.44 (1.62)	0.54n.s
楽しさ得点	4.30 (.924)	4.31 (1.06)	-0.04n.s

\* $p < 0.5$

技術習得度合計点においては、小学生の方が有意に高かった理由としては、筆者や指導者の観察からも小学生の方がヨットに乗っていたからであると考えられる。

技術点において小学生のほうが有意に高かった理由として、この時期の小学生はゴールデンエイジと言われ、「即座の習得」の時期でもあることから、初めてのスポーツにおいて、小学生の方が大学生より飲み込みが速かったからではないかと考えられる。指導者からも、小学生は感覚的なものでヨットに乗っているのではないかとされていたことから、その中で操作を繰り返し、自分の中で感覚をつかんでいるのではないかとと思われる。

理解点において有意な差がなかったのは、大学生と小学生共に同様の指導を受けており、半日のみ指導であったため理解において差が出なかったのではない

かと思われる。

不安と楽しさについても大学生と小学生に有意な差はなかった。つまり小学生も大学生も同様に程度の不安と楽しさがあったといえる。

全体の技術習得度合計点、技術得点、理解得点、不安得点、楽しさ得点の関係を明らかにするため Pearson の相関係数を用いて分析を行った結果、楽しさ得点が高い人は技術得点、理解得点も高いことが明らかになった。柴田(2015)の研究から、「できる」「わかる」「わかる」「わかる」ことと、楽しさは深く関わっていることがわかっており、楽しくヨットに乗ることが技術の向上、ヨットの理解につながると思われる。

技術得点が高い人は理解得点も高かった結果については、進藤(2015)の研究と同様に、ヨットの理解と技術の習得は互いに関係性あることが明らかになった。

表2. 全体の技術習得度合計点、技術得点、理解得点、不安得点、楽しさ得点の相関関係結果

	不安得点	楽しさ得点	技術習得度合計点	技術得点	理解得点
不安得点	1	—	—	—	—
楽しさ得点	-0.164	1	—	—	—
技術習得度合計点	-0.099	.350**	1	—	—
技術得点	-0.064	.289**	.934**	1	—
理解得点	-0.126	.355**	.862**	.624**	1

\*\* $p < 0.01$  \* $p < 0.05$

小学生と大学生を別々で見ると小学生においては全体結果と同様であったが、大学生においては楽しさと理解のみ有意な関係性が見られた( $r = .297, p < .05$ )。

小学生は全体の結果と同様に、楽しくヨットに乗ることと技術の向上や、ヨットの理解に関係があったが、大学生はヨットの操作技術の理解が楽しさと関係していることがわかった。

## 4. 結論

結果から、大学生と小学生ではヨット技術習得度において違いがあることが明らかになった。小学生には理解や技術の指導はもちろんではあるが、楽しくヨットをすることが最も重要ではないかと考えられ、大学生においてはヨットの操作やヨットの理解を深めることにより、楽しみながらヨットの習得度が向上するのではないかと考えられる。しかし今回のヨットの技術レベルは初級のみであったため、今後は多様な技術レベルで調査することで、年齢に応じた指導法に役立つのではないかとと思われる。

## 引用文献

- 藤井勝記(2013)発育発達と scamon の発育曲線 スポーツ健康科学 35:1-16.
- 柴田俊平(2015)運動指導と身体知 びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要 3:9-17.
- 進藤雄雄(2007)ヨット受講生のセーリング技術習得過程と自己効力感の变化 大学体育研究 29:69-78.